

〈教育ノート〉

TOEFL ITP リスニングのための教材活用

—— 聞き取り能力および語彙力向上のために ——

西川 純恵

Training in Listening Skills and Vocabulary for TOEFL ITP Listening: Learning Materials for Use inside and outside the Classroom

Sumie NISHIKAWA

(2011年1月12日受理)

I. はじめに

大学入学以後の大学生の英語力をどのように維持、向上させていったらよいかが問われて久しい。多くの学生たちにとって大学入学試験の英語学習に費やした時間やそのために触れた英文の量に比して、大学入学以後に履修する英語科目の中では、大学生用に工夫が凝らされた授業が展開されていても、その時間数や接する英文の量は限られたものとなりがちである。学生側は、大学生としてどのような英語運用能力を身につけることを目指すべきなのか、明確にイメージできないままにいる、というのが実情ではなかろうか。

TOEFL ITP (Test of English as a Foreign Language, Institutional Testing Program) に代表される団体受験用英語標準化テストの実施は、そのような状況下での具体的到達目標設定のための方策の1つである。ただし学生がTOEFL ITPの3つのセクション、すなわちリスニング、文法、リーディングのスコアを実際伸ばすには、TOEFL ITPテスト形式への対策という表面的なことではなく、英語総合力の向上を必要とし、それは決して容易な作業ではない。その実現のために不可欠なのは、学生自らが、どのような英語力を身につけるべきかを認識し、授業内外で自律的に英語学習に取り組むことである。教員側には、大学が設置するテスト対策コース用にはそれに適した授業用教科書の選定が、また学生の状況を見極めた上で独習用教材についての助言や指示をすることが求められる。

TOEFL ITPに向けた指導を展開していく上で、学習する側にとっても、指導する側にとっても問題の所在の判別が難しいのが聞き取り能力であろう。リスニングのスコアが低いという状況は目前にあっても、聞き取った音声を認知的に処理する作業は目に見えないものであ

るため、リスニングのプロセスのどの段階で問題が生じているのかの認識が困難であることが多い。そのプロセスは通常いくつかの段階に分けられ、例えばLynchによる分類では、認識(Recognition)、解釈(Interpretation)、参加(Participation)という用語を用いて説明される。相手が発した英語を聞き取れないという場合には、むしろ発話の速さや音のつながりも影響するが、その大きな理由の1つが、認識の段階で、相手が発した語が聞き手の語彙にないことによる。

日本人大学生が身につけるべき英語力の1つの重要な側面が語彙力であることが、別の方面からも示されている。2009年に東京大学と京都大学それぞれの研究グループが編集する語彙学習用テキスト、および単語集が、大学受験用英単語集とは一線を画す形で刊行されたことは、きわめて意義深いものと言えよう。2000年にCoxheadにより学術語彙リストが発表されて以降、日本国内でもアカデミックな場面に適した英語使用や語彙指導への関心が高まり、こうした書物に結実したと考えられる。

このように、通常リーディングと結びつけてとらえられがちな語彙力であるが、リスニングにおいてもきわめて重要な要素を成すものである。大学入学前に身につけた語彙力とTOEFL ITPリスニングで用いられる語彙との間にギャップがあるのであれば、リスニングのスコアを伸ばすための語彙力強化という発想が必要になってくる。この点をふまえ、以下に、TOEFL ITPリスニングに十分対応できる英語力を養うには、どのような教材や学習方法があり、それぞれどのような特徴があるかを具体的に解説することとする。

II. TOEFL ITP形式での学習指導にあたって

TOEFL ITPリスニング向けの教材としては、TOEFL ITPまたはペーパー版TOEFL用に開発されたものが利用できる。内容としては、TOEFLテストの全セクション(リスニング、文法、リーディング)を網羅した総合教材、リスニングに特化したもの、また聞き取り能力補完のための語彙学習教材などがあり、主要な教材に次のようなものがある。

1. Deborah Phillip, *Longman Preparation Course for the TOEFL Test: The Paper Test*. White Plains, NY: Pearson Education, 2003.

ペーパー版TOEFL向け総合教材で、TOEFL ITP向けの学習に活用できる。リスニング、文法、リーディングのセクションごとに、注意を向けるべきポイントを個々のスキルとして細かく挙げ、スキルごとに例題と解説、および豊富な練習問題を備えた包括的なもの。リスニング問題パートAの会話問題については、17のスキルを否定文の聞き取り、仮定法による文の聞き取りなどの6つのグループに大別している。各セクションの前後には、学習者が苦手とするところを判別するための事前テストと、学習確認のための事後テストがあり、また模擬問題5回分を含む。リスニング問題用CD(7枚組)別売り。

2. Pamela J. Sharpe, *Barron's Practice Exercises for the TOEFL*, 6th ed. Barron's Educational Series, 2007.

ペーパー版TOEFLとインターネット版TOEFLの両方に対応できるよう構成された総合教材。練習問題はどちらの方式用のものか明記されており、解答には簡潔な説明も付記されている。

3. 神部 孝『TOEFL テスト ITP 完全攻略』アルク 2006 年。

TOEFL ITPの試験形式や設問の種類、またスコアについての簡潔な解説と模擬試験1回分が収められたもの。TOEFL ITPがどのような試験であるかの全体像を示すのに利用できる。

4. 『TOEFL テスト ITP リスニング完全攻略』岩村圭南監修・解説 ICU TOEFL テスト問題研究会問題作成 アルク 2006 年。

実践的な練習問題への取り組みを数多く取り入れたい場合に活用できる教材。学習者の実力診断テスト、模擬問題2セット、確認テストからなる計4回分の模擬テストを含む。

5. 田中 知英『TOEFL TEST 対策 ITP リスニング』テイエス企画 2009 年。

学習者の実力診断テスト、練習問題、および確認テストという模擬テスト中心の構成を取りながら、学習者が自分の理解度を意識できるよう解説の充実が図られたもの。短い会話を基にしたパートAの聞き取りでは、理解のポイントが「慣用表現」、「副詞 rather の理解」などと簡潔に示されている。また問題文だけでなく、選択肢で用いられている英文にも目配りがされているのが特徴で、4つの選択肢のうち3つがなぜ誤答であるのかという正確さを期す学習態度の養成が意図されていると言える。

6. 宮野 智靖・Joseph T. Ruelius・木村 ゆみ『TOEFL TEST リスニング完全攻略』語研 2002 年。

コンピューター版TOEFL、すなわちTOEFL ITPの基盤となっているペーパー版TOEFLから現行のインターネット版TOEFLへの移行期の試験用に出版されたもので、徹底したリスニング力強化を図るのに充実した内容の一冊。その問題形式はTOEFL ITPに類似しているため、TOEFL ITP受験者にも有益な教材。模擬テスト形式は取られておらず、「イディオムの知識を問う」というように独自の分析により分類したリスニング問題のタイプごとに練習問題が設定されている。あわせて、類音語句、言い換え表現、仮定法や否定などが重要事項として取り上げられており、学習者が着眼すべきポイントを明確に示した聞き取り訓練を実施できる。

7. 阿部友直『TOEFL Test 対策 iBT & ITP 基礎演習』テイエス企画 2009 年。

現行の公式TOEFLとTOEFL ITP両方を視野に入れ、英語圏留学を目指す人の英語4技能(読む、聞く、書く、話す)の総合的向上を意図して作成されたもの。人文科学、自然科学、アメリカ史などTOEFL試験の出題英文としてよく用いられるアカデミックな内容の英文8種が取り上げられており、読解や文法の学習だけでなく、付属CDを用いてTOEFL ITPリスニングのパートC、すなわち大学の講義形式の聞き取り指導のために活用できる。特に、付属CDでは英文教材が2通りの読まれ方で収録されており、意味のま

とまごごとによりゆっくりと読まれるフレーズ読みとナチュラル・スピードの読みを、学習者のリスニング力に応じて活用することができよう。あわせてディクテーション問題もあり、正確に聞き取れているかの確認をすることもできる。

8. Vanessa Coggshall. *Word Smart for the TOEFL*. New York: Princeton Review, 2009.

収録単語は中級程度の250語に絞りながら、平易な英語で語意を示すとともに例文の内容を工夫することで、その語の用法が学習者の記憶に定着しやすいよう工夫された語彙学習教材。例文の多くがその内容を示すイラストと共に示されているのが特徴。収録単語は、意味上関連する17のグループに分けられ、例えばaccumulateは“Growing and Shrinking”の章で扱われる。その例文“I noticed that after I hadn't cleaned my house for a month, the dust began to *accumulate*.”に添えられたイラストには、リビング・ルームのテレビやソファを覆うほこりを掃除する女性が描かれている。各章末に、語意の確認問題あり。

9. 仲本浩喜『TOEFLテスト基本ボキャブラリー2000語』角川SSコミュニケーションズ2009年。

単語を列挙した単語集としてではなく、文脈の中で効果的な単語学習ができるよう意図されたもの。見開き2ページの左側に150語前後の英文と日本語訳、右側にターゲットとする語の語義や類語のリストという構成で、自然や科学技術、文化と歴史などに関する英文を扱った80のユニットがある。4つのユニットごとに、類語への言い換えによる確認テストあり。各ユニットの単語の理解を確認した上で、付属CDを用いて内容の聞き取り訓練が可能。

10. 神部孝『TOEFLテスト英単語3800』改訂新版 旺文社 2006年。

TOEFLのスコア・レベルに応じて4段階にランク分けした単語について、日本語による語意の理解を主目的とした単語集。ランク1 (TOEFL ITP 500点前後)の語約1100語は説明を語意のみに留めた基本単語として扱われ、ランク2 (TOEFL ITP 550点前後)以上の語については、類語や反意語、例文などを加え説明を充実させている。巻末の「分野別単語リスト」は専門用語がその背景を示す英文の中で示されており、理解の度合いを確認するのに活用できよう。練習問題はなし。

11. 神部孝『TOEFLテスト英熟語850』改訂新版 旺文社 2006年。

上記10.と同じ方式により、3段階にランク分けした熟語および句動詞をアルファベット順にリスト化し、例文と共に示した熟語集。各ランクに確認問題あり。イディオムの理解はTOEFL ITPリスニングで重要であるので、黙読による学習に留まらず、付属CDにより例文の聞き取り訓練を行うよう指導することが肝要であろう。

Ⅲ. 語彙指導にあたって

TOEFL ITP形式以外に、語彙指導に有効な教材類には、I.で触れた東京大学と京都大学発信の語彙学習書も含め、次のようなものがある。

12. Diane Schmitt and Norbert Schmitt. *Focus on Vocabulary: Mastering the Academic Word List*. White Plains, NY: Pearson Education, 2005.

Coxheadによる学術語彙リスト全570語から約500語を精選し、これまでの研究成果から語彙習得に有効とされる手法をふまえて作成された、学術語彙学習のための教科書。学術文献コーパスをもとに選定されたこの語彙リストの語は日常用いる英語に比べ使用頻度は低いものの、大学教養科目レベルの内容理解に必要とされている。TOEFL ITPリスニングの講義形式問題のために語彙力向上を図りたい場合に特に有効と考えられる。7つのテーマからなるユニットごとに3つのリーディング用英文と辞書の様々な活用方法を示したストラテジーのユニットのあわせて4つのユニットからなり、語の意味、派生形、どの語とともに用いられるかというコロケーションなどについて豊富な練習問題が提示されている。

13. Peg Sarosy and Kathy Sherak. *Lecture Ready: Strategies for Academic Listening, Note-taking, and Discussion*. Level 1 to 3. New York: Oxford University Press, 2006.

大学の講義形式の聞き取り訓練に適した、主に授業での使用に向くDVD教材。講義で使用されるアカデミックな語彙をまずリーディング用英文で学習した後、講義ビデオを見る学習活動が提案されている。

14. Michael McCarthy and Felicity O'Dell. *Academic Vocabulary in Use*. Cambridge: Cambridge University Press, 2008.

コーパスを基にアカデミックな場面で使用される語彙を選出し、英語学習者が間違えやすい用法に配慮して編集されたもの。見開き2ページを1ユニットとし、左側に例文を用いての説明、右側に練習問題という構成で50ユニット。独習にも向く。最初の9つのユニットが主に品詞別の主要語の学習に当てられ、それに続けて、語と語の結びつきへの理解を深めるよう構成されている。大学生活に関連する語を学ぶユニットもある。本書と同シリーズで、レベル別の語彙学習用教材として、中級者から上級者向けの *English Vocabulary in Use Upper-Intermediate* (2001)、上級者向けの *English Vocabulary in Use Advanced* (2006) などがある。

15. Michael McCarthy and Felicity O'Dell. *English Idioms in Use*. Cambridge: Cambridge University Press, 2002.

使用頻度の高い1000あまりのイディオムをコーパスから選出して作成されたイディオム学習用教材。上記14.と同様に見開き2ページを1つのユニットとし、全60ユニット。全体は、健康、失敗と成功、仕事など使用場面でまとめたセクション、イディオム中の主要語が示すイメージでまとめたセクション、イディオムの構成語としてよく用いられる head や eyes などの語でまとめたセクションの3つに分けられている。索引から目的のイディオムを探し当てることが可能。

16. 東京大学教養学部英語部会編『東大英単』東京大学出版会 2009年。

東京大学教養学部必修統一授業で使用される教科書 *On Campus* 全14章から各20語を

選定、単独で語彙テキストとして使用できるように編集されたもの。見出し語には、簡潔な英語による語意の説明、派生形や同義語、およびアカデミックな文脈での例文等が示されている。単語集とは異なり、語彙テキストとして練習問題に工夫が施されている。各ユニットの20の見出し語は、5語ごとにユニットで扱ったのとは別の英文を用いて空所補充問題が備えられ、ユニット末には見出し語の語意を英語で確認する問題などが設定されている。CD付きテキストでは、各ユニットの見出し語、例文、およびその日本語訳を聞くことができる。

17. 京都大学英語学術語彙研究グループ・研究社『京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110』研究社 2009年。

京都大学の全学共通教育での使用を念頭に、大学生の語彙教育用に作成された英単語集。京都大学が独自に開発した英語学術語彙データベースを基に、特定の専門分野によらない、一般学術目的のための英語使用を視野におき、文系・理系共通学術語彙(477語)、文系共通学術語彙(311語)、理系学術語彙(322語)として抽出されたものである。練習問題は備えられていないが、文系、理系いずれの場合でも約800語の習得をという具体的な目標となり得る。

IV. リスニングの学習指導にあたって

聞き取り能力の訓練のためには、TOEFL ITP形式の教材だけでなく、種々の方法を学習者のニーズに応じて提示することが求められる。ウェブサイトを通じて簡便に利用できる次のような教材も、リスニングの学習指導に活用できる。

18. 旺文社・Yahoo「TOEICデイリーミニテスト」<<http://stepup.yahoo.co.jp/english/toeicest/>>

聞き取りを苦手とする学習者には、聞き取る分量の負荷を減らした上で英語音声の意味ある内容として理解できるか、またすべての語を正確に聞き取れているかを意識化させることが必要であろう。このサイトはTOEIC (Test of English for International Communication) 用練習問題を扱ったものだが、その写真描写問題(パート1)や、質問への応答問題(パート2)は、TOEFL ITPの会話問題に比べて聞き取る英文の量が少ないことから、1文レベルの音声認識に集中した学習ができる。内容理解にほぼ問題がないようであれば、パート1、パート2それぞれで読まれる英文をディクテーションし、すべての語を正確に認識できているのか確認する活動へ発展させることができよう。

19. fonetiks.org <<http://www.dictationonline.com/>>

ディクテーションを学習活動に積極的に取り入れていきたい向きには、例えばこのようなサイトを利用すると、スクリプトも入手でき有用であろう。ここではTOEFL 500点を中級レベルとし、初級から上級の5段階のディクテーションが提供されている。英文がナチュラル・スピードで読まれた後、ディクテーション用にポーズをおいて再度読まれるので利用しやすい。

20. Randall's ESL Cyber Listening Lab <<http://www.esl-lab.com/>>

このサイトの“General Listening Quizzes”や“Listening Quizzes for Academic Purposes”では、分量の多い英文を聞き取って内容を理解する訓練や、聞き取った内容を一時的に保持して設問に答える訓練ができ、TOEFL ITP リスニングのパートBやパートC向けの学習に有効であろう。それぞれ3段階のレベルがあり、会話の時間にも長短があるが、数多くの練習問題が提供されている。

21. アルク「標準語彙水準SVL12000」<<http://alc.co.jp/eng/vocab/svl/index.html>>

アルク社が英語話者による使用頻度を基にしながら日本人英語学習者への有用度を考慮して選出した12000語を1000語ずつ12のレベルに区分した段階別語彙学習リストで、例えばレベル5は「大学受験前に覚える英単語」、レベル6は「検定試験に挑戦する英単語」とされている。このサイトでは各レベルの語をアルファベット順にリスト化するところまで公表されている。教育機関によって、同社のオンライン英語学習教材ネット・アカデミー2を導入している場合は、この語彙リストを基にした「道場」と呼ばれる単語テスト機能を利用できる。各レベルの1000語を10問ずつ100セットにし、日本語で語義を把握しているかを問う選択式テストにしたもの。解説等は含まれていない。

22. 全国英語教育研究団体連合会「英語学習者のためのレベル別語彙テスト」<<http://www.zen-ei-ren.com/>>

この語彙テストは、10000語レベルまでの英単語を使用頻度順に7つのレベルに分けて単語力を測定するもので、リーディング版に加えてリスニング版があるのが特徴である。レベル5以上では、選択肢の語意が英語で与えられており、単語ごとの音声を英語による語意説明と即座に結びつけられるかどうか確認できる。

V. おわりに

TOEFL ITPテストの中でも、リスニング・セクションへの苦手意識は根強く、どのように学習を進めたらよいか模索する学習者が多いと思われる。学習者が独習する際には、タイトルにTOEFL ITP向けと示されているものにまず取り組む可能性が高い。むしろ、実践練習に取り組む中でスコアを向上させていく学生もあるだろうが、これまでに挙げたような様々な特徴を持つ教材が入手可能であることを指導する側が掌握し、自律的な学習へ学生を導いていけるようにしたいものである。

参考文献

Coxhead, Avril. “A New Academic Word List.” *TESOL Quarterly* 34.2 (2000): 213-38.

Lynch, Tony. *Teaching Second Language Listening*. New York: Oxford, 2009.

